

単発性膀胱転移をきたした右腎癌の1例

中西 泰一, 有澤 千鶴, 安藤 正夫
東京都保健医療公社東部地域病院泌尿器科

SOLITARY METASTASIS TO THE URINARY BLADDER
FROM RENAL CELL CARCINOMA: A CASE REPORT

Yasukazu NAKANISHI, Chizuru ARISAWA and Masao ANDO
The Department of Urology, East Tokyo Metropolitan Hospital

A 48-year-old woman was referred to our hospital with a bladder mass which was detected by a general practitioner. Ultrasonography showed a small bladder tumor and right renal mass. Cystoscopy revealed a solitary, non papillary tumor at the right side of the retro-trigone. Computed tomography revealed a large tumor at the right kidney. Transurethral resection of the bladder tumor was performed. The histopathological diagnosis was clear cell carcinoma. There was no other distant metastasis. Sequentially, radical nephrectomy was performed. Histopathologically, the right renal tumor showed clear cell carcinoma. This was considered to be a case of a solitary metastatic bladder tumor from renal cell carcinoma.

(Hinyokika Kiyo 52 : 937-939, 2006)

Key words : Renal cell carcinoma, Metastatic bladder tumor

緒 言

腎細胞癌の転移は肺, 肝, 骨をはじめとする臓器に転移を来しやすいが, 膀胱などの下部尿路に転移することは稀である. 今回われわれは膀胱に単発性に転移を来した右腎癌の症例を経験したので報告する.

症 例

患者 : 48歳, 女性

主訴 : 膀胱刺激症状

既往歴 : 高血圧, 子宮筋腫 (手術なし)

喫煙歴 : なし

家族歴 : 特記すべきことなし

現病歴 : 2005年9月12日, 膀胱刺激症状で近医受診. 下腹部の超音波検査で膀胱内に腫瘍が確認されたため, 10月2日, 当科に紹介受診した. 初診時超音波検査で右腎に腫瘍性病変の描出あり. 膀胱鏡検査で右後三角部に腫瘍を確認した. 精査加療目的で10月7日入院となった.

入院時現症 : 身長 149.5 cm, 体重 63.5 kg, 血圧 140/80 mmHg, 体温 36.4°C. 胸部に異常所見なし. 右上腹部に腫瘍を触知.

検査所見 : 血液, 生化学に明らかな異常所見認めず. IAP 370 μ g/ml, CRP 0.16 mg/dl. 尿沈渣は WBC 10~19/hpf, RBC 10~19/hpf. 尿細胞診は class III であった.

画像所見 : 腹部 CT では右腎外へ大きく突出し, 造



Fig. 1. Abdominal CT scan revealed right renal mass.

影早期で強く濃染する 8.9×6.7 cm の内部不均一な腫瘍を認めた (Fig. 1). 明らかなリンパ節転移は認めなかった.

膀胱鏡所見 : 右後三角部に小指大の血管増生と表面石灰化を伴った非乳頭状有茎性の単発性腫瘍を認めた (Fig. 2).

治療経過 : 10月11日経尿道的膀胱腫瘍切除施行. 腫瘍基底部は肉眼的に表在性であり明らかな浸潤所見は認めなかった. 病理診断は clear cell carcinoma であった. 全身検索施行し, 他部位に明らかな転移は認められなかった. 10月24日再入院し, 10月28日, 経腹的右腎摘除施行した. 摘出標本では腎周囲脂肪織に浸潤する 7.5×5.5 cm の黄白色の腫瘍を認めた.

病理組織所見 : 膀胱の腫瘍と同様小型円形核と淡明

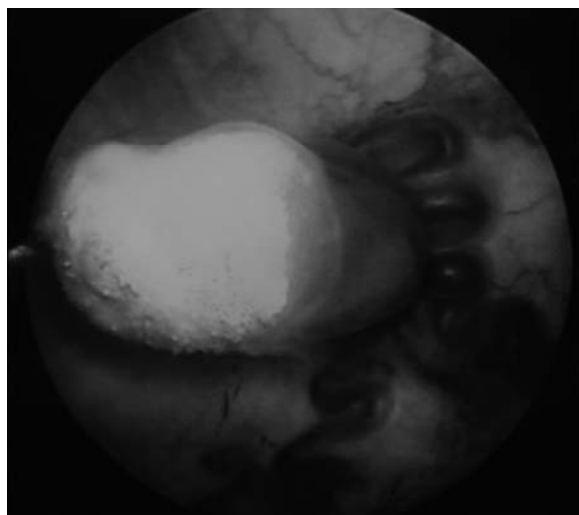


Fig. 2. Cystoscopy revealed a solitary, non papillary tumor at the right side of the retro-trigone.

な胞体を有する腫瘍細胞が増生し, clear cell carcinoma, G1, pT3a, v (+), 断端 (-) であった (Fig. 3).

術後経過に問題なく退院し, 外来経過観察中である。

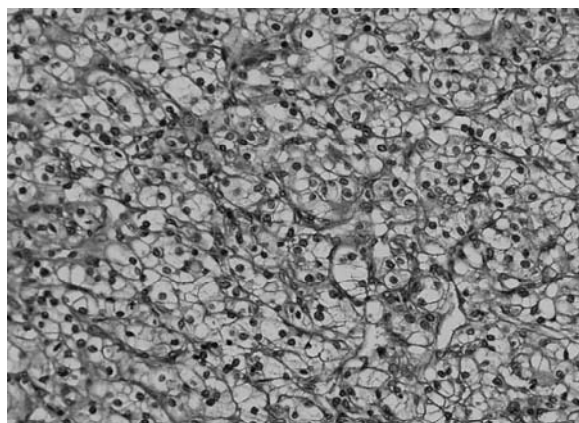


Fig. 3. Histological examination. Tumor cells are consistent with clear cell carcinoma (HE stain×20).

考 察

腎細胞癌の遠隔転移は肺, 肝, 骨などに多く見られるが, 膀胱転移は稀である. 報告されている膀胱転移の症例のうちで, 膀胱以外の遠隔転移を来たさなかったものは約32%とされ¹⁾, われわれが調べた限りでは, 遠隔臓器転移で膀胱に限ると報告されているもので岡崎ら²⁾の6例に追加した7例目である.

自検例を含めた7例をまとめると (Table 1), 年齢は47~86歳, 平均年齢は61.3歳で, 男性2人, 女性5人であった. 原発巣は全例右側であり, 転移巣は原発巣と同側が3例であった. 膀胱転移出現までの期間は1年未満が4例であった.

一般的に膀胱癌全体に占める転移性膀胱癌の頻度は稀であり, 2%未満と報告されている³⁾. さらに, 腎細胞癌剖検例においては大越ら⁴⁾は409例中10例 (2.4%) に, また Saitoh⁵⁾ は1,451例中23例 (1.6%) に膀胱転移を認めたと報告している.

腎細胞癌の膀胱転移する経路については, 血行性, リンパ行性と尿流による implantation の3つが考えられる. 血行性転移に関しては大循環を介した経路と, 下大静脈腫瘍塞栓が存在する場合に腎周囲の側副血行を介した経路が考えられる. リンパ行性転移に関しては, 大動静脈周囲のリンパ節転移が認められることが前提条件になると考えられる. 尿流性転移に関しては, 腎盂癌では尿流性の経路が主で, 患側の尿管口周囲に転移が認められやすく⁶⁾, 腎細胞癌に関してもその一部が腎杯, 腎盂粘膜に浸潤している場合は尿流性による implantation の可能性も否定はできないと考えられ, 同機序を支持する報告もある⁷⁾. 自検例は転移側が同側であり, 他部位に転移を認めたわけではないが, 腎盂粘膜への浸潤は認めず, 大循環を介した血行性転移ではないかと考えている.

予後に関しては, 膀胱以外の遠隔転移を認めた場合は悪く, 多くは1年以内とされ⁸⁾, 1年生存率は12.5%との報告⁹⁾もある. 一方で, 膀胱以外に遠隔転移を認めない場合は比較的良好である¹⁰⁾との報告があるが, 一般的に遠隔転移を有する腎細胞癌の予後の低さを考慮すると, 後療法を含め密な定期経過観察が肝要

Table 1. Summary of solitary metastasis to the urinary bladder from renal cell carcinoma in Japan

症例	報告年度	年齢	性別	腎癌側	発生部位	腎癌発見からの期間	治療法	組織
1	1980	57	女	右	右尿管口	6年	部分切除	Clear cell
2	1984	64	女	右	三角部中央	8ヵ月	TUR	Clear cell
3	1985	65	女	右	右側壁	同時	TUR	Clear cell
4	1987	62	男	右	頂部	同時	TUR	Clear cell
5	1990	47	男	右	三角部中央	3年	TUR	Clear cell
6	1994	86	女	右	左側後壁	5年	TUR	Clear cell
7	自検例	48	女	右	三角部右側	同時	TUR	Clear cell

であると判断された.

結 語

単発性に膀胱転移を来した右腎癌の1例を経験したので報告した. 本症例は後療法も考慮したが, 患者の希望により経過観察の方針となった. 今後も密な定期経過観察が必要になると考えられた.

文 献

- 1) 川上憲裕, 橋本 博, 加藤祐司: 膀胱転移した腎細胞癌. 臨泌 **59**: 419-421, 2005
- 2) 岡崎 浩, 鈴木光一, 鈴木孝憲: 膀胱転移で発見された腎細胞癌の1例. 泌尿器外科 **15**: 569-572, 2002
- 3) Roberts DI: Secondary neoplasms of the genitourinary tract. Br J Urol **50**: 68, 1978
- 4) 大越正秋, 長谷川 昭: 腎腺癌の臨床病理学的統計. 日泌尿会誌 **59**: 1105-1116, 1968
- 5) Saitoh H: Distant metastasis of renal adenocarcinoma. Cancer **46**: 1487-1491, 1981
- 6) Williams CB and Mitchell JP: Carcinoma of the renal pelvis: a review of 43 cases. Br J Urol **45**: 370-376, 1973
- 7) 谷川克己, 松下一男: 腎細胞癌の膀胱転移の1例. 泌尿紀要 **36**: 927-929, 1990
- 8) Chingwundoh FI, Khor T and Leedham PW: Bladder metastasis from renal carcinoma. Br J Urol **97**: 650-651, 1997
- 9) 柳沢良三, 松木克之, 鈴木 徹, ほか: 大脳転移を切除し得た腎癌2例の報告と本邦文献例の検討. 日泌尿会誌 **79**: 925-932, 1988
- 10) Remis RE and Halverstadt DB: Metastatic renal cell carcinoma to the bladder: case report and review of the literature. J Urol **136**: 1294-1296, 1986

(Received on May 11, 2006)
(Accepted on August 7, 2006)